沖絹	工業高等	専門学校	開講年度	令和06年度	(2024年度)	授業科目	機械システム工学実験II	
科目基礎			,	,		,		
<u>- 1 </u>	AC11311A	5105			科目区分	専門 / 必	·····································	
授業形態		実験・実習	9		単位の種別と単位			
開設学科		機械システム工学科			対象学年	5		
開設期		通年	 			3		
教科書/教	/教材 自作資料(各教員が各担当テーマ毎に配布)							
担当教員		山城 光,下	嶋 賢,安里 健太郎	,森澤 征一郎				
到達目標	票							
のまとめた 【VI-A-1】 【VIII-A】 【VIII-E】 【IX-D】	方、考察の 】専門工学 相手の意見 事象の本質 チームワー	進め方を習得すま 実験・実習:そを聞き、自分の を要約・整理し クの必要性・ノ	「る。 らのづくりの基礎は D意見を伝えること J、構造化(誰が見 レール・マナーをヨ	らよび機械工学の こで、円滑なコミ 記てもわかりやす 里解し、自分の感	理論を体験的に理解 ユニケーションを図 く)できる。	できる。 ることができる ールをし、他者	の意見を尊重し、適切な	
コンユー ルーブリ			こ、コチョを殴らい				,	
<u>, v </u>	<u> </u>		理想的な到達レバ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	最低限必要な 到達レベル (可)	
専門科目の講義で修得した知識を実験で確認し、幅広い知識を実験で確認し、幅広い知識を有機的に統合,応用するる能力を身に			左記項目に関する 価点に対して、8 得点をあげるこの できる。	30%の	左記項目に関する評 価点に対して、70%の 得点をあげることが できる。		左記項目に関する評価点に対して、60%の得点をあげることができる。	
つける。 実験結果をまとめ・考 察することにより成果 を発信するスキルを 身につける。			左記項目に関する 価点に対して、8 得点をあげること できる。	30%の	左記項目に関する 価点に対して、7 得点をあげること できる。	'0%の	左記項目に関する評価点に対して、60%の得点をあげることができる。	
グループで協調して 課題に取り組み、協 調性やプレゼンテー ション能力を身につ ける。			左記項目に関する 価点に対して、8 得点をあげること できる。	30%の	左記項目に関する 価点に対して、7 得点をあげること できる。	'0%の	左記項目に関する評価点に対して、60%の得点をあげることができる。	
	到達目標工	頁目との関係	 系		•			
教育方法								
	<u> </u>	機械システ振動・熱工に対している。	- ム工学実験 I およ - 学・流体工学・制 - 行う。実験テーマ	びⅡでは機械工 御工学)に関す な5テーマとす	学の各分野(機械材料 る各種基礎実験を活る。初めに関禁概要 書を作成する、機械	料、材料加工、材 う。各実験に4ヶ を説明し、実験だ システムエ学家	オ料力学、電気電子工学、 〜 5週を当て、5つの班に分か ち週を当て、5つのでは、 金取(5年で3年年)では、熱工	
概要 授業の進&	女寺 め方・方法	振動・熱工 れて・結果を 一を扱うもの	[学・流体工学・制 [行う。実験テーマ [とめ・考察をおこ 「学・計測力学・制	御工学) に関す は5テーマとす ない、実験報告 御工学および流 教員の指示にし	る各種基礎実験を行る。初めに授業概要で 書を作成する。機械: 体工学に関する実験で たがい,作業着・作	う。各実験に4々を説明し、実験だ を説明し、実験だ システム工学実験 を行う。実験によ	オ料力学、電気電子工学、 ~5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ(5年次通年)では、熱工 よっては重量物や工作機械 用するごと。実験日誌や実験	
概要 授業の進む 注意点	め方・方法	振動・実無動・実無動・実にを持続を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を	学・流体工学・制 行う。実験テーマ とめ・考察をおこ 学・計測力学・制 もあるため、指導	御工学) に関す は5テーマとす ない、実験報告 御工学および流 教員の指示にし	る各種基礎実験を行る。初めに授業概要で 書を作成する。機械: 体工学に関する実験で たがい,作業着・作	う。各実験に4々を説明し、実験だ を説明し、実験だ システム工学実験 を行う。実験によ	〜5週を当て、5つの班に分か 5法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ(5年次通年)では、熱工 よっては重量物やT作機械	
概要 受業の進む 注意点 授業の原	め方・方法 属性・履何	振動では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	に学・流体工学・制学・ に に に に に に に に に に に に に	御工学) に関す は5テーマとす ない、実験報告 御工学および流 教員の指示にし	る各種基礎実験を行る。初めに授実機要で表する。例のに受業概要でまる。機械は上学に関する。といい、作業者を作いい、作業者を作る。	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に システム工実験に を行う。実験に 業帽作業靴を着原	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)では、熱工 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進 注意点 授業の原	め方・方法	振動では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	学・流体工学・制 行う。実験テーマ とめ・考察をおこ 学・計測力学・制 もあるため、指導	御工学) に関す は5テーマとす ない、実験報告 御工学および流 教員の指示にし	る各種基礎実験を行る。初めに授業概要で 書を作成する。機械: 体工学に関する実験で たがい,作業着・作	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に システム工実験に を行う。実験に 業帽作業靴を着原	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)では、熱工 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進む 主意点 受 業の 原 □ アクラ	め方・方法 属性・履信 Fィブラーニ	振動では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	に学・流体工学・制学・ に に に に に に に に に に に に に	御工学) に関す は5テーマとす ない、実験報告 御工学および流 教員の指示にし	る各種基礎実験を行る。初めに授実機要で表する。例のに受業概要でまる。機械は上学に関する。といい、作業者を作いい、作業者を作る。	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に システム工実験に を行う。実験に 業帽作業靴を着原	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)では、熱工 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進む 主意点 受 業の 原 □ アクラ	め方・方法 属性・履信 Fィブラーニ	振動では、大変を表している。 実には、大変を表している。 一次 大変	「学・流体工学・ ディン・ ディン・ ・ 実験 デーカン・ ・ 計測力 ・ 計測力 ・ 計画 ・ ・ ・ ・ ・ ・	御工学) に関す は5テーマとす ない、実験報告 御工学および流 教員の指示にし	る各種基礎実験を行る。初めに受実機要で表す。初めに対る。機械 体工学に関するを実験 体工学に関する。 体工学に関する。 は再実験となる。	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年) で機械 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進む 主意点 受 業の 原 □ アクラ	め方・方法 属性・履信 Fィブラーニ	振動ではいる。	「学・流体工学・制学・ ・流体工学・ ・流生学・ ・記さい・ ・表記を	御工学) に関すでは5デーマという。 (関すすきない、学まないではままではままではままでは書き直しまた)	る各種基礎実験を行る。初めに授業概要で る。初めに授業概要で までに関する。機械 体工学に関する手・作り たがい、作業着・作り は再実験となる。	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に システム工実験に を行う。実験に 業帽作業靴を着原	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)で機械 まっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進む 主意点 受 業の 原 □ アクラ	め方・方法 属性・履信 Fィブラーニ	振動では 振動では ・設集動すの を報 を報 多上の区分 ニング	「学・流体工学・記学・記学・記録を記述を記述しています。またのでは、またのでは	御工学) に関すすに関すすにます。	る各種基礎実験を行る。 を構造で実験を行る。 を作成する。後実験 体工学に関する。 体工学に関する。 は再実験となる。	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年) で機械 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進∂ 主意点 受業の原 〕 アクラ	め方・方法 属性・履信 Fィブラーニ	振動では ・製験果動すの体 ・製造書の区分 ・ング 多上の区分 こング 週 1週 2週	デ・流体エ学・流体エ学・流体エ学・流・実際・制でできる。 実際を学・制力を対して、おいて、 はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます	御工学) に関すすに関すすにます。 に関すすまない、学ができまないでは、 できまないでは、 しょうない しょくない しょく しょうない しょうない しょく	る各種基礎実験を行る。 を構造で実験を行る。 を作成する。後実験 体工学に関する。 体工学に関する。 は再実験となる。	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年) で機械 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
既要 受業の進& 主意点 受 業 の原 〕 アクラ	め方・方法 属性・履信 Fィブラーニ	振動では、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般に	「学・流体工学・記学・記学・記録を記述を記述しています。またのでは、またのでは	### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	る各種基礎実験を行っる。 を構造で表演機械 は一次では、 を作成する。 を作成する。 を上では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)で機械 まっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進∂ 主意点 受業の原 〕 アクラ	め方・方法 <u>属性・履値</u> ディブラーニ	振動では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	「学・流体工学・流体工学・流体工学・流・実際・記念を表現である。 考別を対して また できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	御工学)に関すすに関すすとない。 でいます	る各種基礎実験を行っる。 を構造で表演機械 は一次では、 を作成する。 を作成する。 を上では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年) で機械 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
既要 受業の進& 主意点 受 業 の原 〕 アクラ	め方・方法 属性・履信 Fィブラーニ	振れ施学を報 ・実結振う書 多上の 多上の 3週 1週 2週 3週 4週 5週	デ・流体エディー (学・流体工学・流体工学・流・実際・制度を対して、 ままのでは、	御工学) にマママン に関すする に関すする に関すする にない 学 おい でいまない でいまない でいまない でいまない でいまない でいまない かい	る各種基礎実験を行る。 初めに受う機械 素を作成でる。機械 体工学に関するる実験 たがい、作業る。 」 遠隔授業対応 ッジヒータ構造 作成	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年) で機械 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進∂ 主意点 受業の原 〕 アクラ	め方・方法 <u>属性・履値</u> ディブラーニ	振れ施学を報 ・実結振う書 多上グ 多上グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	デ・流・流・流・流・流・流・流・流・流・表表が、表表が、表表が、表表が、表表が、表表が、表示を対して、表示を対して、またのでである。 「とと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	御工学)にママンではない、学のではない、学のではない、学が表示ではは、一次ではは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、	る各種基礎実験を行る。 初めに受う機械 素を作成でる。機械 体工学に関するる実験 たがい、作業る。 」 遠隔授業対応 ッジヒータ構造 作成	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)では、熱工 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
競要 受業の進む 主意点 受業の原 □ アクラ	め方・方法 <u>属性・履値</u> ディブラーニ	振れ施学を報 ・実結振う書 多上グ 多上グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	デ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	御工学)にママン (関すす) (ママン (ママン) (る各種基礎実験を行る。 初めに受う機械 素を作成でる。機械 体工学に関するる実験 たがい、作業る。 」 遠隔授業対応 ッジヒータ構造 作成	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)では、熱工 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
受業の進々 主意点 受業の原 □ アクラ 受業計画	め方・方法 <u>属性・履値</u> ディブラーニ	振れ施学を報 動で・・扱告 多上グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	デ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	御工学)にママンでは、1000円では、	る各種基礎実験を行っる。 を有力のに受る。機械 構体に受る。を実験では、 事を作成に関すする。 は再実験となる。 はあまい。 「一夕が析」 の学習 グラフ化とデータ	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年) で機械 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
既要 受業の進む 受業の原 」アクラ	め方・方法 <u>属性・履値</u> ディブラーニ	振れ施学を報 ・実結振う書 多上グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	御丁子 一夕整理 一夕整理 一夕整理 一夕整理 一夕整理	る各種基礎実験を行っる。	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)で機械 まっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
既要 受業の進む 受業の原 」アクラ	め方・方法 <u>属性・履値</u> ディブラーニ	振れ施学を報 ・実結振う書 を 上グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	学・では、	御工学 中 中 か で か で で が で で が で で で で で で で で で で	る各種基礎実験を行っる。 を相談に授業機械である。 を作りでは関すする。 を作りでは関すする。 を作りでは関すする。 は本工学に、作業なる。 は本工学に、作業なる。 は本工学に、作業対応 は本工学に、作業対応 は本工学に、作業対応 では、一タ分析 の学習 グラフ化とデータ 作成 作成	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)で機械 まっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
競要 受業の進む 主意点 受業の原 □ アクラ	め方・方法 <u>属性・履値</u> ディブラーニ	振れ施学を報 動で・・扱告 シート が 多上グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	御まり ではない	る各種基礎実験を行っる。 を相切のする。を行うでする。を作りでする。ででは、できまった。のでする。のでする。のでする。ででは、できまれた。では、できないできないでは、できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)で機械 まっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
競要 受業の進む 主意点 受業の原 □ アクラ	め方・方法 <u>属性・履値</u> ディブラーニ	振れ施学を報 事に 事に 事に を報 多上グ 多上グ 多上グ 多上グ 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が	学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	御まり 一夕整理 プログラミ 1 1 1 1 1 1 1 1 1	る名種基礎実験を行っています。	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年) で機械 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
競要 受業の進む 主意点 受業の原 □ アクラ	め方・方法 属性・履作 ディブラーニ 画	振れ施学を報 事に 事に 事に を報 多上グ 多上グ 多上グ 多上グ 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が	学・元 (学・元) (学・元) (学・元) (学・元) (学・漁) (学・漁) (学・漁) (学・海) (学・	御丁子 一 一 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	る名種基礎実験を行って、	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)では、熱工 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進む 注意点 受業の原 □ アクラ	め方・方法 属性・履作 ディブラーニ 画	振れ施学を報 ・実に振う書 多上グ 週 1週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	御子 (本) (**) (*	る名種基礎実験を行って、	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年) で機械 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進 注意点 授業の原	め方・方法 属性・履作 ディブラーニ 画	振れ施学を報 多上グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	学・うかには、	御子 (本) (**) (*	る名種基礎実験を行って、	う。各実験に4ヶを説明し、実験に を説明し、実験に を行う、実験に を行う、実験に 業帽作業靴を着が	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年) で機械 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	
概要 受業の進む 注意点 受業の原 □ アクラ	め方・方法 属性・履作 ディブラーニ 画	振れ施学を報 多上グ 多上グ 多上グ 多上グ 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が 多上が	学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	御子	る名書では、 る名書では、 本を作り、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 は本では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	う。各実版に4 ^々 を説しています。 を説、実験に システンス実験で表 システンス 実験で表 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	~ 5週を当て、5つの班に分か 方法の討議実験準備・実験実 検Ⅱ (5年次通年)では、熱工 よっては重量物や工作機械 用すること。実験日誌や実験	

1			3週	倒立振子システムのモデル解析				
大映表値による倒止板ナシステムの女正化制御夫験			4週		極設定法によるレギュレータの設計を行う.			
よる流体計測の原理			5週	実験装置による倒立振子システムの安	定化制御実験	実機による倒立振子システムの安定化制御実験を行う.		
8週 ピトー管による風洞内の速度分布測定 9週 物体周りの流れ場の可視化 10週 物体周りの流れと作用する力 11週 熱工学実験レポートの修正 12週 振動工学実験レポートの修正 13週 計測工学実験レポートの修正 14週 制御工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 15週 流体工学支験レポートの修正 16週 16週 100 25 5 100 25 100 25 100 25 100 25 100			6週	風洞試験と無次元数、及びピトー管、 よる流体計測の原理				
10週 物体周りの流れ場の可視化 10週 物体周りの流れと作用する力 11週 熱工学実験レポートの修正 12週 振動工学実験レポートの修正 13週 計測工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 16週 100 25 100 25 100 25 100 25 100 25 100			7週	ピトー管と熱線式風速計を用いた風洞	 内の風速検定			
10週 物体周りの流れと作用する力 11週 熱工学実験レポートの修正 12週 振動工学実験レポートの修正 13週 計測工学実験レポートの修正 14週 制御工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 16週			8週	ピトー管による風洞内の速度分布測定				
4thQ 11週 熱工学実験レポートの修正 12週 振動工学実験レポートの修正 13週 計測工学実験レポートの修正 14週 制御工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 16週 レポート その他 合計 総合評価割合 95 5 100 基礎的能力 25 0 25 応用力 25 0 25 社会性 20 5 25			9週	物体周りの流れ場の可視化				
4thQ 12週 振動工学実験レポートの修正 13週 計測工学実験レポートの修正 14週 制御工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 16週 評価割合 レポート その他 合計 総合評価割合 95 5 100 基礎的能力 25 0 25 応用力 25 0 25 社会性 20 5 25			10週	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー				
4thQ 13週 計測工学実験レポートの修正 14週 制御工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 16週 レポート その他 合計 総合評価割合 95 5 100 基礎的能力 25 0 25 応用力 25 0 25 社会性 20 5 25			11週	熱工学実験レポートの修正				
13週 計測工学実験レポートの修正 14週 制御工学実験レポートの修正 15週 流体工学実験レポートの修正 16週		441-0	12週	振動工学実験レポートの修正				
15週 流体工学実験レポートの修正 評価割合 レポート その他 合計 総合評価割合 95 5 100 基礎的能力 25 0 25 応用力 25 0 25 社会性 20 5 25		4thQ	13週	計測工学実験レポートの修正				
16週 評価割合 との他 合計 総合評価割合 95 5 100 基礎的能力 25 0 25 応用力 25 0 25 社会性 20 5 25			14週	制御工学実験レポートの修正				
評価割合 レポート その他 合計 総合評価割合 95 5 100 基礎的能力 25 0 25 応用力 25 0 25 社会性 20 5 25			15週	流体工学実験レポートの修正				
レポート その他 合計 総合評価割合 95 5 100 基礎的能力 25 0 25 応用力 25 0 25 社会性 20 5 25			16週					
レポート その他 合計 総合評価割合 95 5 100 基礎的能力 25 0 25 応用力 25 0 25 社会性 20 5 25	評価割合	 ì						
総合評価割合955100基礎的能力25025応用力25025社会性20525				レポート その他			合計	
応用力 25 0 25 社会性 20 5 25	総合評価割合			<u> </u>				
社会性 20 5 25				25 0			25	
	応用力			25 0			25	
	社会性			20 5			25	
主体的・継続的学修意欲	主体的・継続的学修意欲			25 0			25	